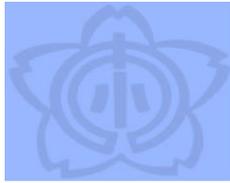


すぎなっ子



令和 3年度 7号
10月12日(火)発行
文責 中野島小学校長

コスモスの花が風に揺られ、秋本番を迎えようとしている今日、短い秋休みをすごした子どもたちが、元気な姿で登校してきました。秋はいろいろな行事が予定されています。一致団結し、実りある秋にしたいと思っています。



🍁🍁「その気にさせる」🍁🍁

〇〇マジックという言葉で表現されるように、各分野には、名監督と呼ばれる方々がおられ、選手や子どもたちを飛躍的に変容させ、成長させている姿や記事を見ます。名監督の共通点として、情熱があることや、選手や子どもたちを「その気にさせる」ことが上手であることがあげられます。

ともすれば、成長過程にある選手や子どもたちは、生活や学習過程でのつまずきや、他者からの否定的な言葉を信じることによって、やる気や自信を見失いがちとなります。また、子どもたちを支える指導者や保護者も過度の期待や成長の停滞により、焦ったり、自先の結果にとらわれたりすることがあります。

そんな時、「名監督ならどうするか」と考察すると、長期的な視点を持って関わることや、練習や学習過程を重視すること、選手や子どもたちとのコミュニケーションを大切にすることを心がけています。このような関わり方や考え方を基盤にして、選手や子どもたちを「その気に」させています。

「その気にさせる」とは、本来、誰もが持っている「分かりたい」、「できるようにになりたい」、「うまくなりたい」という気持ちに火をつけることでもあります。

では、具体的に「その気にさせる」には、どうしたらいいのでしょうか？

やり方は、対象となる人によって様々ですが、次のような点があげられます。

◇「その気にさせる」ポイント

「目標とほめる」 その選手や子どもに合った目標(大・中・小)を合意して与え、タイミングよくほめる

「やればできる」 その選手や子どもが「やればできる」と思えるようなヒントや支援(声かけや補助)を与える

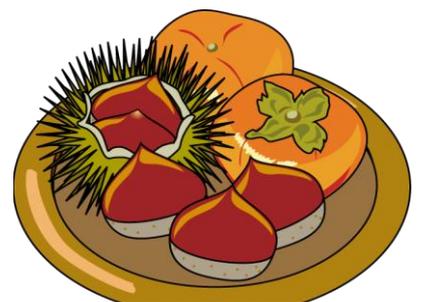
「粘り強い工夫」 その選手や子どもとのコミュニケーションを大切にし、やり方や目標を常に修正する

「信じて待つ」 その選手や子どもを信じ、あせらず相手の成長を待つ

子育てをするうえで、様々な悩みや辛抱がありますが、見方を変えるとわれわれ大人も子どもとともに成長させてもらい、喜びを共有できる素晴らしい機会が与えられているという面があります。子どもの可能性を信じ、明るい未来創造に向け、われわれ大人も成長できるよう、ともに頑張りましょう。

🍁🍁10・11月の行事予定🍁🍁

- 10月15日(金) バス遠足 (1~5年生)
- 10月19日(火)・20日(水) 修学旅行 (6年生)
- 10月28日(木) 牟岐少年自然の家 (5年生)
- 11月2日(火) 運動会
- 11月11日(木) クラブ活動
- 11月19日(金) 県統一大会 (臨時休業日)



※バス遠足、修学旅行、牟岐少年自然の家の行事は、コロナウイルスの感染状況によって、変更もあります。

校内陸上記録会 9月30日(木)



3年生から6年生の希望者が夏休みや放課後に練習を重ねてきました。曇り空の中、参加者は、目を輝かせ、最後まで、力を出し切りました。後日、個人の記録に対し、市から記録賞が渡されます。

さいご、ちから、だき、せ、最後まで、力を出し切りました。後日、個人の記録に対し、市から記録賞が渡されます。



避難訓練 10月4日(月)2時間目



訓練の放送を受け、真剣に、素早く、安全に避難することができました。
 一次避難 教室 → 運動場へ
 二次避難 運動場 → 2階教室へ



◇訓練では、「自分の命は自分で守る」を合い言葉に、「お・は・し・も」をしっかりと心得て実践しました。

訓練のまとめに、防災主任から東日本大震災の教訓等を子どもたちに伝えました。

命を守る三原則 (3S) ①想定にとられるな、②最善を尽くせ、③率先避難者たれ

【児童の感想より】その状況で、どのような行動をとるかが、命を守るために大切なことだと思いました。南海トラフ大地震がきた時には、今日覚えた命を守る三原則をいかせたらいいなと思いました。

- Ⓐ おさない
- Ⓑ はし走らない
- Ⓒ しゃべらない
- Ⓓ もどらない